



第32回鬼貫顕彰俳句 小学校・中学校の部 受賞者決定

小学校低学年の部
 なのはなはどんだんさいてひろがって 鳥長 湊 さん（花里小 3年）

小学校高学年の部
 帰ってく海の底まで夕焼けが 福田 蘭子 さん（緑丘小 6年）

中学校の部
 母の腕晩夏に気付くたくましさ 酒井 優 さん（北中 3年）

（ ）内は、受賞当時の在籍校・学年

令和5年度 教育基本方針（要約）

はじめに
一 今の時代

異常気象や新型コロナウイルス感染症の感染拡大、ロシアによるウクライナ侵攻など、誰も想定していなかった出来事が続いています。これからの世代は、地球の温暖化や世界の分断など人類の存続に関わる難問に立ち向かっていかなくてはなりません。

二 重点的な取組
① 主体性の育成

言われたことを真面目に取り組むことは大切なことです。が、それだけでは、先行き不透明な答えのない時代を生き抜くことはできません。

学校においては、教師主導の一斉授業から脱却し、子どもたちが学びの主体となる「主体的・対話的で深い学び」を推進します。また、家庭においては、「計画的に学習に取り組む習慣」の育成に力を入れます。

② 自尊感情の育成

自信は人生のカギであり、自分に自信が持てるようになると、新たなことに挑戦する姿勢が生まれ、困難なことに遭遇しても粘り強く取り組むことができるようになります。「自尊感情」は、自らの生き方を通して自ら獲得していくものであり、「現状を直視するかしないか」、「目標を持つか持たないか」、「考えるか考えないか」の選択において、常に前者を意識した生き方ができるよう支援します。



伊丹市教育長 木下 誠

③ 「子どもの最善の利益」を視野に入れた教育の推進

全国的にいじめの重大事態や不登校児童生徒が増加傾向にあること、「いじめ防止対策推進法」や「教育機会確保法」、「子ども基本法」が施行されたこと等を受け、12年ぶりに「生徒指導提要」が改訂されました。児童生徒が自分らしく生きることができるよう、学校行事の実施や不登校・いじめへの対応、校則の見直し等において「子どもの意見」を尊重するなど、教師の一方的な働きかけから、子どもの自発的かつ主体的な成長を支える指導へとシフトします。

④ 中学校における休日の部活動の地域移行

急激な少子化の進行により、このままでは、近い将来、部活動が存続の危機に陥ることは間違いありません。子どもたちが将来にわたり、安定してスポーツ活動や文化芸術活動に携わることができるよう体制を築くために、「休日の部活動の地域移行」に段階的に取り組みます。

教育施策の推進における基本方針

- ① 「良くて悪くても現状から目をそらさないこと」
 - ② 「幼児期から高等学校までの『縦の連携』と、学校・家庭・地域などの『横の連携』を大切にすること」
 - ③ 「教育情報を積極的に発信すること」
- を基本方針に本市の教育を推進します。

結びに

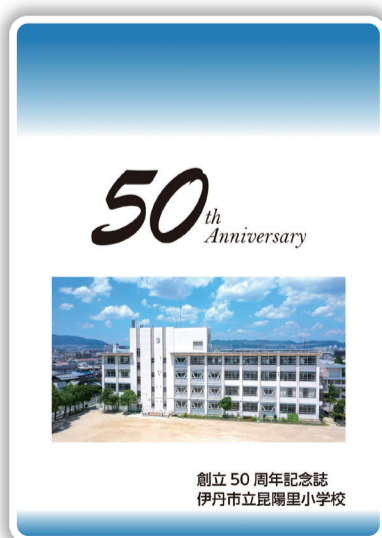
令和5年4月には、「こどもまんなかの社会の実現」を最重要コンセプトに「こども家庭庁」が発足します。子どもは、国の宝であり我が国や本市の将来は子どもにかかっています。

子どもたちが、次代を担う有為な人材となるためには、主体性や自尊感情を育てるとともに、自分の存在が丸ごと受け入れられ、安心して過ごせる「居場所」が不可欠です。

そのために、子どもを取り巻く全ての大人は、心から安らげる家庭や、安全に思いっきり遊べる公園、知的好奇心を刺激する学校や図書館などの整備に努めなければなりません。何よりも、大人の「見守る・待つ・寄り添う」姿勢が大切です。



伊丹小学校 150周年記念航空写真（株）国際総合企画



昆陽里小学校 創立50周年記念誌表紙

令和5年度 基本方針本文は こちらから

